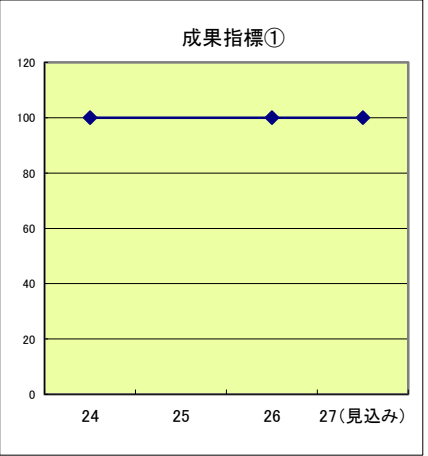
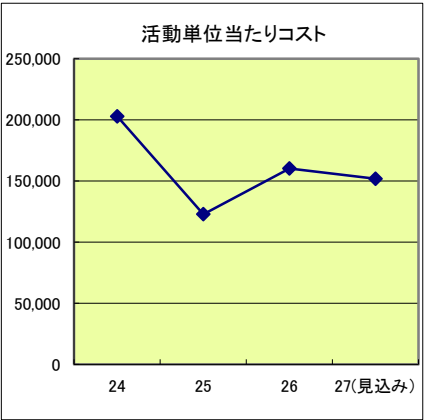


事務事業名			観光農園事業		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち			款	7	商工費	
	施策(節)	8	観光振興・都市交流			項	1	商工費	
	施策の方向	(1)	地域資源の活用と観光資源の創出			目	3	観光費	
関連する計画等					事業	3	観光農園等管理		
					作成部署	観光課			
					(連絡先)	072 - 958 - 1111 内線 2743			
事業の概要(目的・内容)			羽曳野市において、栽培可能と思われる果樹や修景に即した花や野菜を植え付け育成。また、育苗施設としてビニールハウスを設置し、公共施設で利用できる花苗の育成を行う。産業振興に寄与する植物の栽培、研究を推進し、羽曳野市の地域活性づくりにつながる施策を展開する。						
根拠法令等									
事業期間			☐ 10年以上 ☒ 5年以上10年未満 ☐ 5年未満（平成 年度開始）						
事業開始時からの状況変化									
実施手法			☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先			☒ 市外郭団体委託 名称(みのりの里)		委託内容	管理運営業務			
			☐ 民間委託 ☐ その他						

区 分		24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		24,270	15,285	17,254	19,691
人件費【2】 (千円)		6,555	6,210	10,780	6,866
職員数	正規職員	0.95 人	0.90 人	1.55 人	0.80 人
	再任用職員	人	人	人	0.50 人
	嘱託職員	人	人	人	人
	臨時職員・非常勤職員	人	人	人	人
超過勤務(参考) (時間)		時間	時間	時間	時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		30,825	21,495	28,034	26,557
財源内訳	国庫支出金 (千円)				
	府支出金 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他(使用料・手数料等) (千円)				
一般財源【B】 (千円)		30,825	21,495	28,034	26,557
活動指標(事業の活動実績)【C】		24年度	25年度	26年度	27年度 (見込み)
① 果樹栽培規模	本	152	175	175	175
② 施設整備工事	件	1	0	0	1
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①)		202,796 円	122,829 円	160,196 円	151,757 円
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】①)		202,796 円	122,829 円	160,196 円	151,757 円
市民1人当たりコスト (【A】÷人口)		263 円	184 円	243 円	232 円
一般財源【B】の推移(前年度比)			▲ 30.3 %	30.4 %	▲ 5.3 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ✓)		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記1)によらない対象件数などの増減			
		☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減			
※該当項目すべてに✓		☒ 5. その他(管理運営委託費の増加)			



成果指標 (事業の達成度)	指標名		単位	平成24年度		平成25年度	平成26年度	平成27年度
	① 事業推進率	(式又は説明) 栽培果樹の生育見込達成度	%	目標	100	100	100	達成率(%)
				実績	100	100	100	100.0%
	②	(式又は説明)		目標				達成率(%)
				実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
								○		

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	羽曳野市の新たな観光資源の発掘を促し、地域の活性化を図る必要がある。また、駒ヶ谷駅西側公園の活性化事業の展開にリンクした農園利用を検討。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☐	☒	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	委託事業として運営手法の検討に取り組む。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☐	☒	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☐	☒	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☐	☒	☐	27年度よりガーデン倶楽部を設立し、市民ボランティアを募り植栽管理や修景づくりを推進する予定。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	観光資源となる商品や施設運営に係る企画・立案が急務である。
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	果樹が成長し樹勢に応じた果実の収穫が期待される。

担当部局評価	総合評価	
	☒継続 ☐改善 ☐縮小 ☐廃止・休止 (概ね現行どおり継続して実施) (実施方法の改善を検討する) (事業規模の縮小を検討する) (廃止・休止を検討する)	
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)	
	今後の継続的、効率的な運営に向けて、ボランティアの育成や活用に取り組む。 また、現在栽培している種々多様な種類・品種の果樹の中から本市に適した果樹を選別し、観光資源としての活用に向けての研究を継続するとともに、産業振興につながる施策についても併せて検討する。	
行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐継続 ☐改善 ☐縮小 ☐廃止・休止	